

一・越谷市の城館跡

菅波 昌夫

埼玉県の名城

「日本100名城」は、1996年に「財団法人日本城郭協会」(一)が選定した名城の一覧であり、埼玉県からは①大里郡寄居町の「鉢形城(はちがたじょう)」、②川越市の「川越城(かわいじょう)」が選定された(一)。

「日本名城百選」は、1998年に『日本名城百選』(二)に掲載された名城の一覧であり、埼玉県からは①大里郡寄居町の「鉢形城(はちがたじょう)」、②比企郡嵐山町の杉山城(すがやまじょう)が掲載された(二)。

越谷市の城館跡

「越谷市の城館跡」に関する代表的な先行研究として、高崎 力(一九八八)「越谷における中世の城館跡」(三)があり、未だに「」の論考を超える調査・研究結果は発表されておらず、本論では高崎 力(一九八八)(三)をもとに「もとより」を以て引用する。

「越谷の古代は、見田方遺跡の発掘調査によつての一部は解明されたが、中世については資料不足から未だしの感がある。昭和61年度県立歴史資料館による埼玉中世城館跡調査4年田、県東部地区が調査対象になり、私も担当の一人として越谷市を担当した。その調査時点での概要をもとに今回の整理を試み、ともすれば消滅しきつた越谷の中世の記録の一端を後世に残したい所存である。

今回調査の対象とした中で、鎌倉期の野島氏、同じく別府氏は既に遺構すら把握でもない。室町期の新方氏は僅かに向煙陣屋跡としきの水路跡しかない。越谷今田山羽氏および越谷御殿地は、おつもその位置を推定するにあがない。またつい最近まで続いていた宇田氏も昭和60年頃退転し、屋敷跡は住む地となつた。」のよつた現状の中で大相模の大相模(一郎能高屋敷(現中村氏)、神明下の今田七左衛門家などは、幾多の困難を乗り越えて今に至つてゐる数少ない家系である。

今回の対象以外でも、恩間の渡辺家、瓦曾根の秋山家、中村家、川柳の中村家など由緒ある家系もあり、今後の調査対象としたい。

中世の城館跡とっても豪壮な城ではなく陣屋構え、館などで、水堀と土塁をめぐらした程度の屋敷跡である。なお、本文には多くの私見がある「」と「」とわざいたしました」(三)

注

(1) 公益財団法人「日本城郭協会」「日本100名城」一覧
<https://jokaku.jp/business/great-castles/>

(2) 村田 修三(総監修)(1998)『日本名城百選』小学館

(3) 高崎 力(一九八八)「越谷における中世の城館跡」

<https://koshigayahistory.org/131.pdf>